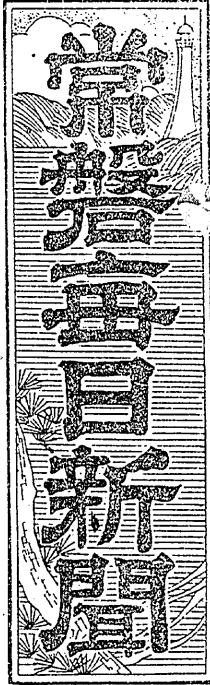


刊夕日九十月三



定額一円... 発行所 常磐毎日新聞社... 電話 六三〇

ハルピン事變籠城記 (II)

ハルピン日本小學校長 白髮隆孫氏寄

その中には單なる觀兵の盛觀を見る以外に、衷心感謝の念を披瀝すべく參列せる眞剣な精神をもてるもの或は綺麗にキモノを着飾れる婦人、さては天真爛漫な少國民にいたるまで、手に手に小さい日章旗をふりかざさざるはない。

不圖見る！多門將軍は多數の幕僚を従へて肅々と馬上悠々と停車場の式場へと馬を進むるのであつた。將軍の左側には皇軍の入場直前まで日本在留民を保護せる義勇團が整列する。劉亮たるラツパは再び鳴り響き、此に待ちに待てる大觀兵式は始まる。隊伍肅々、まづ歩兵によつて今日の大觀兵式の幕は切つて落さる。

高月會 三月例会

(四)

蛙の子
泥池に湧く水もありお玉かな
お玉群れて田尻の水の黒みけり
足音にお玉の亂る淺き水
ふらふらと浮いては沈む蛙の子
哇ゆけばお玉にけたり丸木橋

胡生 閑月 紅果 一夢 秀峰

はタンク隊前進である。

「装甲せる此の龜達」は殊に一般觀衆の興味を惹める群衆は我れ先きにと此の人氣者を親しく目にすべく前へ前へと押寄せ、六個のタンク隊は轟々たる音をさせて龜の子のやうに友軍についで匍匐してゆく、船車隊についで装甲自動車が進む、その後から武装せるサイドカーが行進する。最後には長春から陸軍に從つて出動せる軍用自動車が続く、かくて最後のラツ

文藝募集

バは吹奏されて此に目出度くけふの大觀兵式は終りを告ぐ。

全軍の閱兵を滞りなく終へた、多門將軍は幕僚を従へて悠々歸途につき、群衆は卒ば凍えた身體を引づりながら我家へと急ぐのであつた。

◎死傷者を迎へて

決死の衛生隊に參加の同僚—福富君誌す—

「衛生班集合」との中隊長の命を受けたのは、皇軍歡迎に熱狂してゐた時だつた直ちに各自拳銃を持ちパスに飛び込む、日章旗を翻したパスは武勳に輝く皇軍と歡迎に狂せる市民の間をぬつて新市街の特務機關に向つた。

堂々... 斯界の群を抜く セリザワタクシ！

最高級車プロモス號増車致しました 何卒御用命の程御願ひ致します

電話三九五番

花環 花籠 華蓮

造花

新らしく安い

平町新町平橋 屋本橋

電話一六三番

玉屋洋品店

平町田町通電話六五六番

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町 (電話一七〇番)

大和田醫院

父鹽坂勝二儀病氣の處療養不相叶本日午前一時二十分死去致し候に付き此段生前中の御厚誼を謝し併て辱知諸彦に謹告候

追て葬儀は來る二十日午後二時自宅に於て相營み終て茶毘に附し申候

昭和七年三月十八日

福島縣石城郡内郷村御臺境字新町

嗣子 鹽坂 幸子

親戚 鹽坂 光太郎

總代 鹽田 文三

友人 廣島 次郎

總代 川崎 文治

今回當工場主人鹽坂勝二氏永眠に際し茲に工場開設以來九ケ年間に當工場の男女工として一日たり共御勤勞の諸士へ聊か施與申度御多忙中に存候得共來る二十一日以後五日間の内に御來場相成度此段謹告候也

三月十八日

山田麻袋工場

外科專門 花柳病專門

木村外科醫院

入院自炊の便あり

平町五丁目橋際 電話三〇九番

吉田眼科病院

平町屋町、電話六八番

舗装道路陳情に

今朝大舉上京

代議士を動かして内務省へ

急速實現方を迫る

平町の舗装道路問題は這般村井知事、赤土内務部長の來平により急速實現の可能性を有力ならしめたが井上萩原、野崎、田子の各縣會議員並に酒井助役赤沼關内町會代表は十八日出縣村井知事に陳情し更に關係各區長と提ひ十九日朝上京滯京中の代議士を動かし内務省に陳情運動を開始した

し廿日付を以つて伊藤平署長より表彰した
古市喜三郎 國府田國吉
高木綱次 松崎松太 石

橋儀作 半澤留次郎 今
村万作 金子己之吉 吉
田万吉 半澤辰次郎 福
島炭礦事業部

勿來町長

紛糾

大体は赤津氏

勿來町後任町長問題はその後混沌として進まず赤津同修大平前町長の三派に別れ策動のみ行はれてゐるが傳ふるところによれば町議の意向が大体赤津庄兵衛(政)氏に落つた如くなるも満場一致となるまでには相當困難の立場にあり何れにせよ決定は疑問視されてゐる

篤志者表彰

伊藤署長から

既報石城郡赤井村消防組が去月中村内三ヶ所に鐵骨火見櫓を建造せる際はが資金を寄附せる左記十一名に對

今月末に迫る

礦稅十萬圓

各炭礦惱みの種

常磐地方に於る各炭礦の礦產稅は大中炭礦は兎も角として小炭山は個々二千圓以上の滞納があり當局はこれが整理に腐心し礦區の差押へ競賣を斷行してゐる折柄平稅務署で決定した本月三十一日まで納付すべき本年度右稅金調査額は磐城炭礦の四萬三千五百圓を筆頭に總額概算十萬九千八百八十八圓に達する見込みである前年度は十一萬六千七百七十七圓十二錢で約一割強の減額を示し好況時代の四十萬圓以上に比すれば四分の一にも當らない状態であるも時節柄堅實なる經營をなすつゝある炭礦は別問題として大炭礦を除く中小炭礦はこの稅金の完納には相當苦境の立場に置かれる如く傳へら

山林基本調査

郡下の公私林

縣山林課では来る廿日より九日間の豫定で石城郡渡邊泉磐崎、湯本、玉川、江名、鹿島、豊間、高久の九箇町村に渡る林野の基本調査を行ふので本日平署に同方面の林野に精通せる案内者の選考を依頼して來たが同調査は前記九箇町村の大字小字の境界及び國有、公有、私有等の所有別を徹底的に調査するものであると

珠算競技

各學年入賞者

平第一小學校では十八日午後一時より第十六回珠算競技會を行つたが入賞者は左の如し

△五年(一等)大塚元吉
(二等)山下卓明(三等)名尾卓郎

△六年(一等)志賀長平
(二等)會川麗山(三等)江口成年

△高(一等)清水久吾
(二等)山村光治(三等)平門友巳

△高(二等)箭内重利
(二等)大塚倉雄(三等)川島廣榮

卒業式

平産看校

平町南町平産看護婦學校第廿五回卒業式は二十日午後一時より舉行するが卒業生左の如し

△看護婦ノ部(イロハ順)
猪狩イク 猪狩ソヨ 伊藤テツ 石川ハヨ 石井トク 石房江 豊田フジ 道内千代女 千葉清子 大友トミ 大賀雪子 落合ツル 渡邊俊子 渡邊キキ 渡邊アイ 渡邊ムネ 若松ムラ 河村キヨ 横山キクエ 吉田ミネ 吉田由子 高橋マサ子 高橋うた 高橋かつ 田久榮子 田高リウ 永山サヨ 永山シケ 鶴沼タツ 鶴沼ミチ 遠藤文子 野川アサ 國井民子 久保木シマ子 草野ハナ

募一二勇士遺族の

嗚呼忠勇無比の三勇士何ぞ其の壯烈なりしぞ鬼神も爲めに慟哭せむ、實に振古未會有驚天動地の偉業にして人生を超越し洋の東西に冠絶す、古今英雄多しと雖も蓋し三勇士に如くものなからん宜なる哉其の心情英雄以上の英雄なり、今や同胞國を擧げて戦に赴かんとする誰か彼の三勇士に感激せざるものあらむ殊に目下外交は危機に瀕し東亞の風雲彌々急ならむとする秋、内は國民の士氣を鼓舞し外は國家の威武を宣揚する誠三勇士に負ふ處甚だ大なるを痛感するなり、名將曰く「吾が皇國も三勇士ありて亡びず」と真に至言にして正に彼を弔ふ最大最高の弔辭なり、然り彼等三勇士こそ日本軍人の龜鑑にして大和民族發展の尊き犠牲者なり、吾人は彼等殉國の忠誠を永遠に紀念し併せて千古不磨の英靈を弔はん爲め彼の三勇士遺族へ薄志を饒け以て聊か勇士の靈を慰んとす 愛國の士奮つて賛せられんことを

阿部政右衛門 後援 常磐毎日新聞社

一 弔慰金 一人金拾錢均一に願ひます
二 弔慰金は平驛前丸ッ阿部石炭店又は常磐毎日新聞社に御届を乞ふ
三 寄附者芳名を常磐毎日新聞紙上に掲載領收書に代ふ

寄附者芳名

四丁目	猪狩 政秋	仲間町	大田 安雄
同	高木 直一	内郷村	野崎 丹治
同	宗像 謙光	仲町	船木 豊次
同	内池 岩郎	同	山崎 竹治
同	藤田 吉五郎	同	前田 岩吉
同	高木 貞雄	同	吉村 寅三
同	鈴木 タマノ	同	氏田 竹次
同	草野 國光	同	氏家 富由
同	藤岡 規	同	福田 源太郎
飯野村谷川	瀬山野邊千良	同	生田目 勝頼
南町	丹野 藤吉	同	橋内 勘三
鷹匠町	曾我 清吉	同	鈴木 留男

平町人事

回出 主

△新川町四 丹野竹次郎氏
長女静子
△大工町一七 佐藤子之吉
氏二女キヨ子

蓋明けを待つ

博覽會の人氣

内外の準備進捗

平町の春を飾る昭和産業博覽會は展報の如く準備進捗なく進捗し二十二、三日頃より出品物の搬入に着手する豫定で一方協賛會の催たる平驛前の大観迎塔も昨日より起工し之れに伴れ各町内の思ひの裝飾等も三十四日中に着手の筈で来る二十八、九日頃までには内外全般の設備が整え四月一日の蓋明けを待つ許りで全町は今や博覽會の前人氣沸騰してゐる

徴兵検査

日割變更

日支事變の爲

既報本年度執行される徴兵適齡者の検査日割は五月一日より植田を皮切として行ふ筈の處今回の日支事變の影響により急に變更される事となつた結果植田町は五月廿一日より廿四日迄平町は同月二十五日より廿九日迄と變更された

四倉荒しの賊

平驛で昨夜逮捕

十八日午後四時頃平驛待合室内にゐた職工風の青年が新川町雜貨商山本某がベンチに置いた手提カバンを窃取せんとするのを密行中の平署員が格闘の上取押へて調べるに同入石城郡四倉町字仲須賀生れ住所不定漁夫古川竹松(三)と云ふ者で去る十七日四倉小學校に忍入り腕時計を窃取せる外數件コン泥を働いて平町に逃れ一働きせんとして取押へられたものである

博徒に罰金

平裁判所判決

双葉郡浪江町佐藤金一(四)

み發達したを最近組合員中には是を更に購買部を設けて日用品生活肥料等の購入の斡旋をなすべく十七日役員會を開催満場一致購買部設置の賛成を得たので来る廿六七日頃臨時總會を催し内郷信用購買組合定款並に役員を選任に就き協議すると

産業指導員

經費半額負擔

過般産業組合福島支部では産業組合石城郡部の専任指導員の經費半額負擔をなす旨の發表があつたので石城郡部では此程總會の結果三百卅圓を申請する事に決定した

災害扶助法の解説

伊藤署長が業者へ

本年一月一日より實施された労働者災害扶助法の取扱並に内容に就いては労働者及び雇傭者間に於いて未だ充分同法の機能を熟知する者も少なく實施に當り種々な誤解や手違ひを生じ易いので平署では来る廿三日午後一時より全管内の營業主事業主等を招集し伊藤署長自から同法規の取扱に就いて解説を行ふ筈である

白米一錢値下

古河の購買會

石城郡好間村古河炭礦購買會では會員の生活費低下を圖る爲め十八日より従業員への配給米値段を従來一升に付き廿二錢であつたのを一錢低下して配給する事に決定した

健康を表彰

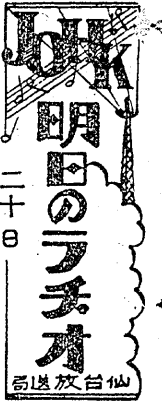
古河保険組合

石城郡好間村古河炭礦會社の健康保險組合では組合員中で五ヶ年間健康を保持せる者を明廿日午後二時より同村小館俱樂部に於いて優良會員として表彰するとの事である

重任か

平町會を召集

平町役場では来る廿二、三



明日のラジオ
今晚も明日も北西の風晴れたり曇つたり雨模様

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- お話「みなさん漫書を描きませう」長崎拔夫
- 後七、三〇 講演 伯爵清浦奎吾商工大臣前田米蔵
- 後八、〇〇 航空座談會
- 後九、三〇 奉天より
- 後九、四〇 全國ニュース
- 氣象通報 番組豫告
- 明日の部
- 前九、〇五 佛敎講座「四

前借を踏み

酌婦ドロソ

石城郡赤井村高萩飲食店加藤ソノ方で最近酌婦として抱へた千葉縣千葉郡譽田村生れ貫井サダ(三)は加藤方に抱られて五日目前借金三百五十圓を踏んで十七日行衛を晦したが同人が抱へると同時に毎日卅才前後の職人風の兄と云ふ者が尋ねて居たので兩名共謀して逃走したものでらしく本日平署へ兩名の取押方を願出た

湯本の違反

略式罰金判決

石城郡湯本町石川毎五郎(三)峯丹次郎(三)武田鐵造(三)の三名は去る二月二十日執行の衆議院議員選舉に際し某派からキョーオーを受け平區裁判所で審理中のところ十九日毎五郎は五十圓他は各三十圓の罰金に處す旨判決があつた

先づ好晴の

お彼岸

暑い寒いも彼岸まで、いよ春の彼岸が訪れて来た各寺院は彼岸詣りの人々で賑はつてゐた、石城地方は好く晴れた天候だが底寒い風が吹き十九日の氣壓は千島方面に七百四十ミリの可

模擬演習

石城郡好間村第一小學校では廿四日午後一時より同窓

後〇、〇五 洋樂發明博覽會々場より中繼

- 後一、二〇 若手長唄の午
- 後一、三〇 吾妻八景「五條橋」四季の山姥「綱箱」漁獲問答「喜三の庭」「小鍛冶」
- 後六、〇〇 子供の時間
- お話「みなさん漫書を描きませう」(二)長崎拔夫
- 後六、三〇 講演 日本放送協會關東支部常務理事中山龍次
- 後七、三〇 「禮拜堂獻堂紀念音樂禮拜」東北學院禮拜堂より中繼
- 後八、〇〇 子供の夕
- 後九、三〇 奉天より

平商試験問題

平商學校では十九日午後一時から職員會を開き来る二十七日、八の兩日執行する入學試験問題を決定した

童話クラブ

石城童話クラブでは荒理事長が音楽研究のため上京することになつたので二十日午前十一時からマルトモ食堂で送別會を開く筈

高久消防協議

石城郡高久村消防組では廿一日午後一時より村役場に於いて幹部會を催し平署管内春期檢閲の表彰人名及び火防宣傳の期日選定等に就いて協議をする

神谷校同窓會

石城郡神谷村小學校では卅一日午前十時より第九回同窓會を行ふとの事である



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

〔第六席〕

神影流の達人秋山要介

要介の腕のさし
秋山要介は消魂しき人聲を聞いて藤屋の二階から駆け降りた、その時表から飛込んで来たは友吉の子分の爲藏

要「先生彌五郎が来ましたよ」
要「ウン然うか、何人ほど率いて参つた」

爲「四五人居りますかね先に立つたは阪戸の萬助と萩窪の仙太郎、それから彌五郎の外は若い者で」

要「萬助仙太郎と申す二人彌五郎にどのやうな縁故がある」

爲「それは兄弟分でございます」
要「よし、俺が行つて退治てくれる」

と云ひながら袴と股立を揃せみ上げて下緒を取つて襷を掛け、爲藏と共に觀世音の境内へ來ると賭場の前に

は彌五郎の子分が脇差を抜いてズラリと居流れてゐる

要「退け、道を開け」
と要介は睨み付けた、びつくりした彌五郎の若い者

〇「何だ、オヤオヤ川越の秋山先生だぜ、どうして此處に來たか」と顔を見合た。

要介はツカ〜と賭場に入つたが彌五郎に仙太郎と萬助の三人は長脇差を引抜いて進み寄り

彌「友吉、是から京阪へ俺達は遊びに行く、若い者を多勢連れて行くんだ、入費



がかゝる、その路用として賭場錢を残りず貰つて行くからその積りで居てくんな、え、さア〜町人、懐中の金を出せ」
客は驚いて慄へてゐる、此は友吉が
友「コレ彌五郎、道中する入費を俺の許へ借りに來た

と、仲間の交際だ、二歩や一兩は革鞋錢として呉れても遣るが、この盆に落ちた金に手を付けるか最後汝の首が胴から離れるぞ、それが承知ならば場錢を渡へ」
彌「ふざけた事をぬかす」と飛びかゝらうとした時に後でパチンといふ響音が聞えたが、パサツ、濡手拭を叩くやうな音がして彌五郎の首はバタリと落ちた。

アツと云つたは萬助と仙太郎、振向いた時にビカリと光つたが、ウーンと二人は悲鳴を揚げてパツパツと左右に倒れた、友吉を見ると二

とはならぬ、機嫌よく遊べオヤ彌五郎の首は行儀正しくその筵の上に坐り此方を見て嬉しうに笑つて居る處で友吉、彌五郎の若い者が大分表に居るやうだ、それへ此首を渡してやれ」
と云ひながら首を提げてノソリ〜と表へ出て來たが

要「所澤の若い者、彌五郎は急病差起り首を落して死

去いたした、又萬助、仙太郎も死んだよ、そこでナ、彌五郎は其の方共に與へる

これを持つて早々立ち戻り懇に葬つて遣はせ、ソレ受取れ」
パツと投げ付けた、イヤ彌五郎の子分の驚いた事、親分の首が無かつたと騒ぎ立つた時、この賭場の後に居た友吉の若い者廿餘人は

は居られませんが、是れからは兩三年、旅をいたします御縁があつたらお目通りを致す事もございませう、御機嫌よくお過ごし下さいませ」
要「イヤ待て、貴様には年老いた親もあり、ましてこ

れは病中、それに妻もあり子もあらう、他國に参つても残れる人々は誰を頼るに其日を送るか、依つて貴様の迷惑ならぬ様にいたして遣る、万事は俺に任せろ」
と慇う申したが、この友吉は異名を孝行友と云はれるほど慇ういふ渡柄に似合ぬ誠に親孝行、それを知つてゐるから要介は友吉が旅へ出るのといふを止めた。

内小科兒科花柳病科
藤沼醫院
應需院入
平町五番七
平町五番七
平町五番七

上田外科醫院
平町南町
電話二一九番

●●●●●
お茶の値下斷行
本場銘茶の優良品を一段と品質を向上致しまして英斷的値下致しました、何卒御試飲下さいませ
煎茶四十目袋入 十錢より五十錢まで
ほうじ茶四十目袋入 十五錢第二號十錢



器灸温ムウチラ
醫學博士名推獎
胃腸病 婦人病 其他の慢性諸症
肥り度い人の福音 熱くなく痕つかず無煙式 誰にも出来る理想的家庭治療器
特許賣專
約卸治 福島縣平町五ノ廿八
代理療 志賀齒科醫院
販理部 福島縣平町白銀町九
賣部 産婆關口悦子
定價表 金拾參圓 藥及特効五週分付
金拾圓 藥及特効五週分付
金拾圓 藥及特効五週分付
（説明書呈）

小兒ノかん・むしニあかひき丸堀藥局
平町二丁目
電話三二六